

## 2015年 生体運動研究合同班会議 報告記

監修 森 博幸 (京大・ウイルス研)



2015年1月7日(水)～9日(金)、学習院大学において表題の研究会が開催されました。新学術領域研究「運動マシナリー」の計画班・公募班のメンバーも昨年に引き続き多数参加し、質疑応答も含めて10分の持ち時間で口頭発表を行いました。今年は講演題数が115題もあり、例年以上に内容満載の班会議となりました。会の参加者は総勢314名にもなるそうです。(懇親会にも183名の方が参加されています。)上の写真を見ると盛会ぶりが良く解ります。お世話頂いた西坂先生、馬淵先生はじめ、両研究室の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本領域メンバーが多数加わったことで、昨年同様、多種多様な話題が取り上げられ議論が繰り広げられました。この合同班会議を通して、バクテリアの運動研究者と真核細胞の運動研究者の間の研究交流が益々盛んになれば良いなと思いました。

会議初日の夜には、目白駅近くのレストラン「キャロット」において、57名の領域メンバー並びに関係者が集合し、新年会を兼ねた交流会が開催されました。(中根さんお世話ありがとうございました。)新領域も3年目となり、お互いの顔と名前も一致するようになると同時に研究内容の相互理解も進んで、段々と打ち解けた雰囲気になってきたような気がします。こうした交流を重ねることで、領域内の融和が進み益々結束が強くなるのだと思います。

2日目の昼食時には、新領域の会議も行われ、総括班活動の現状等が報告されました。ビデオライブラリーはかなり充実されてきており(登録数は400件を超えています)、登録数の増加と共に知名度も上がって行くものと期待されます。フリーズフラクチャー電子顕微鏡装置の現状や問題点についての報告もありました。運動装置のおおまかな形を知るといふ目的では、上記手法は非常に有効であり、本領域の研究推進の大きな原動力になると思います。皆さん奮って利用しましょう。

昨年同様、各グループの出席者計55名の方々から本会議に参加しての感想文を頂きましたので以下に記します。ご多忙の中コメントを寄せて下さった皆様に感謝申し上げます。今回は、宮田代表と評価委員の難波先生の言葉を除いて、「見せしめ」として到着順の掲載としました。(単に並び替えるのが面倒だっただけです。)ご容赦下さい。

## 運動マシナリー領域代表

### 宮田真人 (大阪市大)

運動マシナリーの皆さま、新年のお忙しい中、沢山の班員の方々にご参加いただき、有意義な三日間が過ごせました。世話人の皆さまにも感謝です。今年は例年と異なり沢山のサプライズがあったように思います。(1) 数年ぶりに演題数が100を超えた。(2) 全プログラムが時間どおりに進行した。(3) 数年ぶりに1月7日から始まった。(4) 柳田、片山、難波の各先生が長い沈黙の後に参加、発表された。(5) 杉先生が本音を連呼された。(6) 矢沢先生の北寄貝の秘密が明かされた。(7) 浅井先生の発表が時間内に終了し、宮田から以外の質問があった。(8) 数年ぶりに科研費からのサポートがあった。「運動マシナリー」領域は既存の研究グループ枠を超えた、生体運動研究の交流を推進します。今後もよろしくお願ひします。

## 評価委員

### 難波啓一 (大阪大学大学院)

筋肉や細菌べん毛モーターなど、分子モーターの構造と機能の研究を学生時代から40年近くも続けている私ですが、生体運動班会議で発表するのも会議に参加するのも、実は今年が初めてでした。もちろんこの会議のようすは多くの方達から聞いていましたが、たくさんの興味深いトピックスが発表されて熱のこもった質疑応答が交わされるようすはまさに聞いていたままでした。生体運動分野は、日本の多くの研究者が創生期から世界の最先端で活躍してきた研究分野ですが、この会議がその原動力になってきたことは間違いなく、今回はそれを実感できたよい機会でした。

## 上原亮太 (北大)

年の始めから運動に関わる様々な研究の最新トピックに触れることができ、大変勉強になりました。

細胞レベルの研究では、細胞現象を人為的に誘起・操作するアプローチや、複雑な運動や細胞内構造を一分子レベルで捉えるアプローチなどに、今後の細胞運動研究の大きな流れを作っていく可能性を強く感じました。

あと、例年以上に会のタイムキーピングがしっかりとしていたように感じました。経過時間が演者にもオーディエンスにもはっきりと見える形で示されていたことで、話す側の立場としても、聞く側の立場としても大変やりやすかったです。

## 塩見大輔 (立教大)

「生体運動合同班会議」には昨年に引き続き2回目の参加となりました。100題以上の発表を3日間で聞くという濃密な会議に参加できて非常に有意義でした。私たちはバクテリアのアクチンの機能解析を行っていますが、やはり真核生物のアクチン研究から学ぶことが多くありました。また、私の発表にもいくつかの質問をして頂き、その後の休憩時間にも質問に来てくださった方もいて、聞く側としても、発表する側としても、大変勉強になる時間を過ごすことができました。

## 岩楯好昭 (山口大)

生体運動合同班会議は1つの会場で細胞、分子の運動の研究の話を一気に聞ける会です。シンポジウムで何らかのトピックの詳しい話を聞けたり、ポスターで立ち入った話を聞かせてもらえる学会も良いですが、広い範囲の話を端的にまとめて聞け

る本会の存在は大変勉強になりました。

### 森 博幸 (京大)

今年で3回目ですが、生憎の公用の為、最初の2日間だけの参加となりました。例年以上に厳しいスケジュールとなり昨年の私のお願いは西坂さんには届かなかったようですが(冗談)、「繰り返し学習」「刷り込み効果」のおかげで十分に楽しめました。

若い人から年配の先生まで同じ持ち時間で平等に自分の研究を語るという発表スタイルは素晴らしいと思います。柳田先生や難波先生の7分トークを拝聴でき、不思議な体験となりました。

### 石井英治 (京大・森班)

普段聞きなれない「生体運動」という分野に、恐る恐るの初参加でした。しかし、「生体運動」をめぐる現象の謎を様々な角度から多様な手法を用いて迫る研究内容に目を見張り、3日間大変興味深く拝聴させていただきました。演題の中には領域の班会議で耳慣れたものもありましたが、本会議では実際に実験を行っている人による発表も多く、班会議とは異なる視点からの発表に新鮮さがあり良かったと思います。普段参加する学会では決して聞くことのできない内容があり、非常に良い経験でした。

### 渡邊力也 (東大)

今回、昨年につき、2度目の生体運動合同班会議への参加になりました。昨年と同様、沢山の方々が生体運動に関して交わしている議論は興味深く、私自身の研究へのフィードバックは非常に大きかったと思います。来年も参加させて頂きたいと思います。

### 垣内力 (東大)

「優れた研究発表と活発な討論に大変刺激を受けました。特に構造や形態からのアプローチは私にとって新鮮で学ぶ所が多かったです。本会議で知った方法や頂いたご指摘を元に、更に研究を発展させたいと思います。」

### 園部誠司 (兵庫県立大学)

いつものことですが、刺激を受け、話を聞いているうちに実験したくなります。今回は特に、運動装置の応用に話に刺激を受けました。ミドリムシがパズルをはめ込む動画はおもしろかったですね。私も細胞運動装置の応用を考えていますがなかなかいいアイデアが浮かびません。とりあえず原生動物を材料にしたおもちゃでも作ってみるといいのでしょうか。

### 山岡望海 (兵庫県立大・園部班)

発表に対し多くの方から興味を持って頂き、モチベーションの上がる良い機会となりました。皆さまのご期待に応えるためにも、ますます研究に励みたい所存です。今回は、工学や応用面での話がいくつかあり、自分の研究をどのように活かせるかを考える上で興味深い内容でした。

### 梁瀬隆二 (兵庫県立大学・園部班)

初めての班会議での発表はとても緊張しました。そして三日間に渡る数々の興味深い発表に大いに刺激を受けました。今後、一層真摯に研究に取り組んで行かなければと考えさせられる班会議でした。

### 小橋川剛 (兵庫県立大学・園部班)

今回私自身の発表はありませんでしたが、皆様の発表を聞くことで、新たな実験のアイデアを考え、自身の研究を改めて考

えるいい機会になりました。また、懇親会等で様々な研究者の方々とお話をさせていただき、充実した班会議でした。

### **徳楽清孝（室蘭工大・上田班）**

生体運動研究合同班会議には学生の頃から20年近く参加しておりますが、最近、「運動マシナリー」領域のメンバーの活躍により本会議が以前にも増して熱く勢いづいているのを感じます。生き物の「最も生き物らしい性質」である多種多様な“運動”を目の当たりにし、あの動きはどうやって生み出されているのだろうかと考えながら発表を聞いているだけでわくわくします。いつもは暗い会場の中で一日中発表を聞いていると眠くなる時間もあるのですが、二日酔いでも全然眠くならないのが不思議です。余談ですが、自宅に帰ってから小学生の娘達に運動マシナリー図鑑を見せたところ、「ロクロクビムシ」に最も興味を示していました。私もビデオを見て、よくあそこまで首が伸びるなあとそのメカニズムが不思議でなりません。

### **上田太郎（産総研）**

今年の生体運動班会議は、例年にもまして演題数、参加者が多く、交通の便の良い学習院での開催だったということを割り引いても、会の勢いを感じました。何の予算や組織の裏付けもなくボランティア運営だけでこういうことが数十年も継続しているということは感動的です。西坂さん、馬淵さん、学習院の皆さん、ありがとうございました。

### **柴田桂太郎（産総研・上田班）**

生体運動研究合同班会議には今年で7回目の出席でしたが、今年も生体運動に関する様々な研究やユニークな発想を肌で感

じることができ、非常に充実した3日間でした。私が班会議に出席するようになったころは、タンパク質の1分子イメージングの発表が多かった気がしますが、最近は複合体や複数分子による、より複雑な系を研究対象にする発表が増えてきている印象を受けます。生体運動研究の流行の最前線を知ることができる非常に重要な会だと実感しています。今年は例年に比べて時間の遅延もなくスムーズな進行でしたし、演題数が多かったにも関わらずほとんどストレスを感じませんでした。運営の方々のおかげだと思います。この場をお借りして御礼申し上げます。

### **杉本優希(大学院生)（東工大・増田班）**

昨年に引き続き参加しました。昨年もそうでしたが、他分野の方の内容を聞くことは大変勉強になり、アイデアの宝庫であったと思います。年齢層も分野も広く非常に刺激の多い3日間になりました。

### **尾上靖宏（名大・本間班）**

柳田先生や難波先生が時間通りにご講演されていたのが印象的でした。ミオシンやF1の研究がこの先どうなっていくのか注目しておりました。F1の研究も今後はミオシンのように、いろんな材料へと対象を広げて回転アッセイをやっていくのかなあと感じました。

### **若林憲一（東工大）**

この会は毎年新たなアイデアを与えてくれる場所です。今年も、例年になく多い演題数が気にならないほど質の高い発表ばかりで、集中して多くを学ばせていただきました。私の個人的なハイライトは柳田敏雄先生のご発表での神谷律先生との質疑応答で、長年この分野を牽引してこら

れた先生方ならではのやりとりに聞き入ってしまいました。運営を担当された西坂先生、馬淵先生ほか関係者の皆様に御礼申し上げます。

#### **野口泰徳 (九大・片山班)**

今回初めて生体運動研究合同班会議に参加させていただきました。演題の内容が多種にわたっており理解するのが大変でしたが、多くの驚きと刺激を受けました。特に、研究技法などは初見のものも多くあり、今後自分の研究を発展させていく上で選択肢が増えたと思います。普段の学会とは違った研究に触れ、視野を広げる良い機会になりました。

#### **谷口紗輝 (九大・片山班)**

今回初めて班会議に参加させていただきました。様々な分野の研究を3日間みっちり聞くことができ楽しかったです。自分の知らないことばかりで大変勉強になりました。このような公の場で発表するのも初めてだったのでかなり緊張していましたが、質問や議論等して頂けて非常に嬉しかったです。ありがとうございました。

#### **野口立彦 (防衛医大)**

大学院時代より参加している班会議ですが、近頃は参加研究室の研究対象の幅がぐっと広がって全体の自由度が増している印象です。しかも短時間ではもったいないぐらいの内容の発表が多く、議論も活発で楽しく参加させていただいています。また運動に関する実験手法や解析方法など研究の実践に役立つことをいろいろ勉強できる場所だとも思っています。いつまでもこの雰囲気が続いてほしいです。

#### **島袋勝弥 (宇部高専)**

2年ぶりの参加でした。自分の研究室の学生が初めて口頭発表したので、今回はPIとしてフレッシュな気持ちで望みました。目がさめるような発表も多く、大いに刺激を受けましたし、また自分の研究に対する建設的なコメントも頂きました。会議の進み方もスムーズで運営面でも大変参考になりました。学習院大学の皆様にお礼申し上げます。

#### **飯田龍也 (専攻科1年) (宇部高専・島袋班)**

今回、初めて生体運動班合同会議に参加させていただきました。生体運動班と言っても様々な分野があり、私にとってはどの報告も新鮮で、大変興味深いものでした。専攻科1年というのは大学3年に当たり、まだ若いうちにこのような場で報告できることはとても光栄なことだと思っています。授業の都合で2日間しか参加できませんでしたが、今回の会議で得た知見と、報告の反省点をこれからは繋げていきたいです。

#### **山田裕太郎(専攻科、21歳)、(宇部高専・島袋班)**

初めて生体運動班会議に参加しました。様々な種類の発表を聞くことで、面白い研究がいっぱいあるということが分かり、もっといろいろなことを知りたいと思いました。また、初めての口頭発表を多くの方々に聞いていただけたこと、偉大な先生から質問を頂けたことも貴重な経験となりました。班会議を通して、とても刺激的な経験をすることができ、楽しかったです。良い結果を出してまた発表に来たいと思います。

### **田岡 東（金沢大・福森班）**

本会には、3回目の参加でした。今回の会も、真核生物から原核生物まで、分子から細胞（個体）までに股がる幅広い分野の発表と、その多様性にも関わらず、ベテランの先生と若手の垣根を超えた活発な議論が印象的でした。私の発表にも、質問時間や合間の時間にたくさんの質問を頂きありがとうございました。休み時間、初日の情報交換会、さらには懇親会でじっくり議論やお話ができ、研究のヒントを頂き、大変有意義な3日間でした。今後とも参加させて頂きたいです。

### **武谷 立（宮崎大）**

本会議には今回で3回目の参加となりました。今年は、本領域の目標である「多様な運動マシナリーの理解」という視点が、班会議全体に浸透している感を抱きました。「多様な運動マシナリーの理解」の先には、そのマシナリーがいかに作り上げられるのか？という新たな問題も広がっているという気がしています。自分の出身がもともと生体運動関係ではないため、領域メンバーはもちろん、それ以外の生体運動関係の方々ともいろいろなディスカッションができたのが有意義でした。また、今回は初めて領域の交流会にも参加し、領域メンバー間での親交を深める大変良い機会となりました。

### **岩崎憲治、廣瀬未果（阪大）**

昨年度に引き続き2回目の出席になります。何よりも生の進行中の研究を聞ける素晴らしい会であることを実感しています。出口を意識しない率直な興味が発表者の方から伝わり、惹き付けられました。私たちが挑んでいる光に対する応答についても、他の生物では、どのような実験手法が

あり、どこまで分かってきているのか学ぶ機会を得ました。数は多いが薄まらず濃密な会は、素晴らしいクロストークの場でもありました。

### **水原志暢（院生）（早大・高野班）**

生体運動班会議への参加は今年で二回目となります。発表される方々は大御所の先生方から学生まで幅広い年齢層で、興味深い発表がたくさんありました。自分自身の研究を見つめ直しながら、非常に刺激を受けています。発表する会場が一会場であることから、参加者全体での活発な議論があり、老若男女問わない交流のし易さは生体運動班会議ならではのようです。また、運動マシナリーでの懇親会では若手同士で交流を深めることもできました。今までの参加は聴講するだけでしたので、来年度は発表という形で参加したいです。

### **中山 浩次（長崎大学）**

今回初めて合同班会議に参加しました。懇親会の乾杯のご発声をされた石渡先生が話されたなかでかなり昔からこの班会議があり、最初に発表したときには講演時間は自己申告制になっており、30分講演したと話されたのが印象的でした。その後、石渡先生と直接お話しする機会があり、1960年代にスタートした班会議と知りました。なんと半世紀も続いていることに驚くとともに、その割には自由闊達な空気が会場に流れているのは学会組織にせずに運営されていることが大きいのではと感じました。

### **柴田 敏史（長崎大学・中山班）**

様々な分野の研究者が生体運動の解明という共通のゴールを目指す情熱が伝わ

る刺激的な会議でした。ベテランの先生方の味、若手研究者の勢のある発表が次から次へと押し寄せ、鋭い質疑討論が行われる会場は程よい緊張感があり、うたた寝する間もなく発表が聞けました。研究のアイデアを得るだけでなく発表の仕方についても学ぶ事が出来ました。会議の休憩時間や懇親会では自身の研究についての議論もでき有意義な時間を過ごせました。

### 近藤 好夫（長崎大学・中山班）

今回はじめての参加でした。普段は微生物の研究をしており、そのほか分野についてはあまり研究発表をみる機会はありませんでした。発表内容や活発な討議はとても刺激的でした。懇親会でもいろんな人と話をする事ができてよかったです。

### 佐藤啓子（長崎大学・中山班）

多くの演題を聴くことができ、楽しい時間を過ごすことができました。

同じ分子でも様々な方向から解析されており、研究の多様性を見ることができました。

3回目の参加になりますが、会場が暖かくて一番過ごしやすいかったです。

### 西山雅祥（京大）

今年も生体運動研究合同班会議に参加させて頂きました。私にしてみれば、学生の頃から参加させて頂いている思い入れのある会です。今年の発表では、最も力を入れた最後のスライドを時間の関係上発表できなくなり、あやうくお蔵入りにするところでした。しかしながら、運良く聴衆から質問を受けたため奇跡の復活を遂げ「深海世界へのロマン」を語る事ができました。質問をしていただいた方、な

らびに、興味を持って頂いた方に感謝いたします。また、今年は、昨年の班会議からはじまった2件の共同研究についても発表させて頂きました。今後も幅広い方に利用して頂けるような計測手法の開発を心がけたいと思います。

### 中村修一（東北大）

私の研究対象であるスピロヘータは、細菌運動の研究分野はなかなかレアな生き物だと思っていますが、そのスピロヘータが霞むほど(?)にユニークな生き物が多く登場するのもこの会議の魅力の一つのように感じました。多様なながらも実は共通の仕組みを使っているようにも見える分子機械の話もあり、大変充実した時間を過ごさせて頂きました。

### 片山栄作（大阪市大・宮田班）

正規の職を辞して以来、「生体運動合同班会議」の出席は久しぶりであった。数年前からは各領域の研究が大幅に進み、まるで「浦島太郎状態」になるのではないかと懸念していたが、意外にもほとんどの話を概ね把握できた。今回は新学術領域・宮田班のメンバーの多くが初めて参加したことに加え、多くのOB、OGの先生方の出席も多く、久しぶりにお目にかかることができた。参加者数の増加に応じて演題数も非常に増え、初日から最終日の夕刻まで、これまで見たことがないほどギッチリとプログラムが詰まっているのには驚いた。また全ての話を聞いたので、正直、かなり疲れた感はある。

### 濱口 祐（大阪市大・宮田班）

新年最初のイベントでは、300人を超える参加者と熱い議論の場を共有することができました。今回、私は2回目の参加に

して初めての発表でしたが、百を超える演題と活発な議論に圧倒されました。1日1日が非常に短く感じ、充実した3日間を送ることができました。

#### **田原悠平（大阪市大・宮田班）**

昨年も参加させていただいておりましたので、発表していただいた方々の研究内容への理解もさらに深まりました。その分、質問したいこともいくつかあったのですが、質問の多いテーマになると質問者が限られるので、次からは宮田先生のように素早く手を上げて質問できるようにしたいです。また、技術支援で行っている急速凍結レプリカ法についての提案や、実験の申し込みもあり、充実した3日間を過ごせました。

#### **笠井大司（大阪市大・宮田班）**

様々な運動現象を様々な方法で研究されていることを知ることができ、普段自分が触れないような生体分子や生物に興味を持つことができた濃密な三日間でした。研究内容のエッセンスだけを十分以内でコンパクトにまとめられた発表は、理解しやすく素晴らしかったです。今後もぜひ参加し続けたいと思っています。

#### **水谷雅希（大阪市大・宮田班）**

今回初めて生体運動合同班会議に参加させていただきました。1人10分という時間の中で入れ替わり立ち替わりの発表だったので、様々な内容のお話を聞け、とても勉強になった濃い3日間でした。

#### **古寺哲幸（金沢大・宮田班）**

5年ぶりに参加・発表させていただきました。以前参加したときよりも、生物種や細胞運動のバラエティが格段に増してい

て、まるで生体運動の図鑑を見ているように3日間が過ぎました。これはひとえに宮田新学術のメンバーの参加により、生体運動の多様さと不思議さを知れる機会が増したからなのだろうなあと思いました。興味を掻き立てられる対象や発見がたくさんありました。個人的には若林憲一先生のクラミドモナスの眼点の役割の話が非常に印象的でした。あの細胞のレンズ効果に気づかれ、それが実証できたときはものすごい興奮だったのだろうなあと。あのようなアドレナリン Max 的な発見をできるような洞察力を磨いていきたいと思いました。

#### **中根大介（学習院大学・中山班）**

世話人の1人として参加させていただき、大変有意義でした。領域のみなさまのご協力もあり、参加人数や演題数で考えると、ここ数年で1番の盛会となりました。ありがとうございます。馬淵先生のお声掛けもあり、柳田先生や難波先生にも登壇していただきことができました。しかも、学部生の発表と同じ『持ち時間10分』で話をするというのが、実に新鮮でした。学問分野横断的、学会横断的、年齢層縦断的であるというのを改めて実感しました。ひとつ、皆様に謝らなければいけないことがあります。今回115演題の発表をスムーズに進行していくために、タイマーを少し早めていました（10分の表示で、実際は9分30秒）。おかげさまで、予定が遅れることなく会を進めることができました。このことは、きっと誰も気付かないだろうと思っていたのですが、とある情報筋によりますと、東大の渡邊力也さんには見破られていたようで、とても驚きました。他にも気づかれたかたがいるかもしれませんが、ここでこっそり謝らせていただきます。すみませんでした。

## 見理 剛 (国立感染研)

昨年に引き続き参加させていただきました。今年も参加者が多く、質問や意見交換も活発な会議でした。私は数式が苦手なので、正確な意味は理解できない発表も多かったのですが、きれいな図や動画が示される発表が多く、楽しめました。会議中、領域のメンバーのかたともたくさんお会いして、近況や共同研究のお話しができたのもとても楽しく有意義でした。お正月早々から、今年もがんばって研究しようという気にさせていただいてありがたかったです。

## 林 郁子 (横浜市立大学)

去年に引き続き2回目の参加でした。非常に数多くの演題が子気味よく次々と発表され、10分の発表で内容がわかるのだろうかという不安を払拭するようなエッセンスの詰まった発表を楽しむことができました。運動と一言でいっても個体レベルから分子レベルまで様々な観点から聴くことができ、実験手法や考え方など自身の研究の見直しや実験への活用が期待できる発表が多々あり、本当に勉強になりました。

## 若林 佑 (M1) (東洋大・伊藤班)

昨年に引き続き、今年も生体運動研究合同班会議に参加させていただきました。昨年に比べて発表の順番がアクチン・ミオシン、微小管、鞭毛、べん毛モーター、微生物の運動、技術紹介といった各分野ごととなっていて理解しやすいという印象を受けました。また、筑波大学下田臨海実験センターの稲葉先生らのハプトネマの発表には衝撃を受けました。こんな不思議な生き物も世の中にはいるのかとともに、興味が湧きました。今年も実りの多い生体運

動研究合同班会議となりました。

## 南野 徹 (大阪大学大学院・本間班)

今回は2年ぶり2回目の参加になります。生体運動が大好きなマニアの研究者が一同に集まった生体運動合同班会議は『相変わらず熱気に包まれたおもしろい研究会』だと改めて感じました。生体運動に関わる分子モーターの原子レベルの研究から細胞運動、さらには、組織レベルの運動まで多義にわたる話が聞け、大変面白かったです。また、115もある演題を時間通りに進められたことは大変素晴らしかったです。ただ、多くの宮田新学術領域に関わるメンバーの話が3日目の午後からのセッションということもあり、観客が激減していたことが少し残念でした。次回は、是非宮田領域のセッションが良い時間帯でできればありがたいと思いました。

## 加藤貴之 (大阪大学大学院・本間班)

昨年に続き、今年も参加させて頂きました。筋肉をはじめ、モータータンパク質をターゲットに様々な方面から、また様々な手法を用いて解析した内容を発表する場だけあって、解析方法から結果の解釈まで非常に勉強になりました。

いかんせん発表時間が短く、発表者数の数が多いため、素人の私にはバックグラウンドについていっただけでも一苦労という内容も少なくありませんでした。もう少し一つの時間を長く、また質疑に時間を費やすようにしてもらえたらと思いました。

## 福島俊一 (D2) (首都大東京・春田班)

昨年に引き続き、2回目の参加となりました。自分と同年代の若手研究者の方の研究、発表のレベルの高さに大いに刺激を受

けました。また、多くの発表演題があるにもかかわらず、完全に定刻通りに進行していて、感銘を受けました。懇親会でも今後の研究に関わる共同研究のお話などさせていただき、大変有意義でした。

### 諸星聖 (D3) (首都大東京・春田班)

運動という共通話題がありながらも発表内容が多岐に渡っており、様々な生物の話の聞くことができ大変興味深かったと思います。発表時の質疑時間は限られていましたが、懇親会等を通じて多くの議論ができ有意義な時間でした。

### 神谷 律 (学習院大)

この会にはもう40年以上、ほとんど毎年、同窓会のような気分で出続けています。出始めたころの会は毎回江橋先生が主催しておられ、筋肉の話が全体の2/3以上を占めていましたが、年とともに「非筋肉」の割合が増えていき、発表される現象も方法も実に多様になっていきました。生体運動研究の会として大変好ましい展開だと思えます。今年感じたことは、その多様化がまたいちだんと進んだことです。運動マシナリー班員の参加によることは間違いありません。これまでの運動班ではあまり発表されたことのない種々の原核生物の運動研究が、私には特に興味深く感じられました。

### 大貫 貴広 (帝京大・若林 (健) 班)

私は、今回が3回目の参加でした。初日に体調を崩し、興味があった演題を聞けず残念でした。2日目からの参加でした。とても興味深い演題が多く、充実した時間を過ごすことが出来たと感じております。生体運動という一つのテーマの下での発表、討論が交わされる一体感を肌で感じ、新年

から身の引き締まる思いでした。

### 五味淵由貴 (帝京大・若林 (健) 班)

今年は演題数も多く、多岐に渡る分野の話の聞けるとても内容の濃い3日間だったと感じます。私は今回、細胞の話を中心に、動物や植物の話をどうすれば見やすく、伝えやすくなるか考え直す良い機会でした。「こんな事もあるのか」と用意したスライドが役立ったりし、発表の準備の大切さを強く感じております。質疑応答の他、休憩や懇親会の時間にも討論したり、発表についてのコメントを頂いたり、年の初めにとても刺激的でした。

### 若林健之 (帝京大学)

ほぼ半世紀にわたって、合同会議から激励、刺激、ヒントを貰って来ました。毎回感じる事は若手の発表の多さと高いレベルで、厳しい現実に勇敢に立ち向かっている姿に拍手を送りたいです。昨年はクラミドモナスが回転しつつ進む話に感激したのですが、これを前提とした仕事も報告され、合同班の良さを感じました。アクチンについて、バクテリア、アーキア、真核生物と多様性に富む種のを横断的に聞けるのも好気心がそそられました。「宮田班」の演題も多く、7分間に煮詰めると別の分かり易さがありました。今年も、共同研究の可能性や多くのヒントが貰えました。115演題で盛り上がった会を支えて下さった西坂さん、馬淵さん、学習院の方々、大変だったと思います。本当に有り難うございました。

### 馬淵一誠 (学習院大学)

私はこの会議に大学院生の時から出ていましたが、それからもう40年を越えてしまいました。45年くらいになるかもしれ

ません。当時は江橋さん、大沢さん、朝倉さん、神谷さん、殿村さんといった、生体運動の歴史教科書があったら出てこられるはずの方々が発表されているのを、会場の後ろの机の上に座って、よくわからんなーと思いながら眺めていたものでした。それでも私は現在、全然長老ではないところがすごいことで、今回もまだまだ大先輩が出席され、しかも研究発表される方もおいでです。一方、若い大学4年生の諸君も出席しているのですから、3世代にわたる人々が一堂に会して最先端の生体運動の議論をしていることになります。人間というものはすごい生き物だと思つづく思います。まさに文化は人間の寿命の長さによって継承されているのです。しかも、この会のポリシーである1会場開催は参加人数が増えても変わらない、というのなかなかすごいことです。学会などでは「このへんの話は難しいからしばらく外を散歩してこよう」と思う発表も、真冬の寒さのために行くところもなく、我慢して聞いているうちに少しは頭に入ったりするのです。また「合同班会議」という会の名前に反して、誰も科研費が通らず班など存在しない年があっても「どうしよう、どうしよう？」という議論をしながらも続けてきたこともすごいですね。

今年は新学術の宮田班が班として参加してくれたおかげで、(主催者の一人としても)まずは財政的に大変助かりました。また、例年とちがい、原核細胞の運動系の

講演が多かったのもそのおかげで、本年の特徴になったと思います。このためアクション、ミオシン、微小管で頭が一杯だった参加者たちは、見慣れぬ細胞の見慣れぬ動きの映像をたくさん見せられて、新鮮な思いをしたことは間違いのないと思います。さらに会議の終わりにも述べさせていただきましたが、多数の演題でスケジュールがぎりぎりであったにもかかわらず、毎日毎日がびたり予定通りの時間で終わった、という奇跡的な会でした。そのため、質疑応答時間は当然不十分だったはずですが、その分、皆さん、休憩時間や懇親会で十分議論ができて、かえってよかったかもしれないと(勝手に)思っております。いろいろな人の発表をみて刺激を受けるのはもちろんこの会の意義であります。この、「場外議論」も大変大事な訳で、あらたなアイデアや共同研究が生まれ、各人の研究はもちろんのこと、この分野の進歩にもつながってきているのです。

以上、本年は良いことづくめの会で始まりました。今年も皆様に新しい展開があることをお祈りいたします。

### 荒田敏昭 (阪大)

この1-2年で、原子から細胞・個体へ、統一性から多様性へ、単純から複雑へ発表内容が変わって来ていますが、この間をつなぐために、生の実験から、個体の中の原子のように、私の研究(ESR)の道があるかなと考えています。

たくさんの方の原稿が集まると個人の感想文であっても会の様子や雰囲気は良く伝わります。次回もこのスタイルを踏襲したと考えていますので、皆さんご協力をお願い致します。

来年は、京大の渡邊先生と本領域の西山さんのお世話で京都での開催です。新領域メンバーのセッションが良い時間帯となる事を期待しましょう。皆さん来年も奮ってご参加下さい。